

白神十二湖山開き



4月9日、観光シーズンの幕開けを告げる「白神十二湖山開き」がアオーネ白神十二湖を会場に開催され、関係者約100人が、例年より早い春の到来を祝いました。

安全祈願祭では、出席した観光関係者が奉獻神事を行い、世界自然遺産白神山や十二湖・青池を訪れる観光客の安全と無事故を祈念しました。引き続き行われた式典では、吉田町長が「一昨年、昨年と二年続いた夏の豪雨災害により、町内のインフラ設備は多大な被害を受けた。一時閉鎖していた白神岳登山が再開できたほか、着実に復旧が進んで来ている。今後は、当地を訪れる方々が白神と十二湖を満喫できる態勢を整え、今年度こそ、コロナ禍、豪雨災害のダメージを払しょくする飛躍の年にしたい」と語りました。

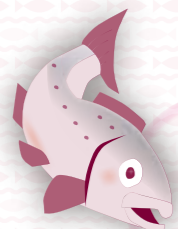
あいにくの雨模様となったため、テーパーカットは室内で行われ、その後、参加者はバスで十二湖へ向かい、青池周辺を散策しました。残念ながら、コバルトブルーの青池を見ることはできませんでしたが、参加者は傘をさしながらキョロロから青池までの散策を楽しんでいました。今年度は4月下旬からすでにブナが芽吹き、新緑の季節を迎えている十二湖。観光バスの数も増えてきているようです。多くの方々に十二湖の自然の中で心も体もリフレッシュしてもらいたいと感じた一日でした。



青池へ向かうバスを見送るスタッフ



傘を手に青池を眺める参加者



大きく育て!

追良瀬のサケ

4月18日、追良瀬内水面漁協によるサケ稚魚放流式が、今年も追良瀬親水公園で行われました。

放流式には、地元関係者のほか、みよし保育園の園児や深浦小学校の3年生、修道小学校の2、3年生など約100人が参加し、サケ稚魚10万尾を追良瀬川に放流しました。追良瀬川では、この日の10万尾と合わせて211万尾のサケ稚魚を放流しています。

参加した園児や児童たちは、自分たちが放流するサケ稚魚を水槽で観察した後、バケツの中を泳ぐ稚魚に「帰ってきてね」「大きくなって戻ってきてね」と声をかけ、放流した稚魚たちが無事に川を泳いでいく様子を見送っていました。



放流するサケ稚魚を観察する子どもたち

